

夢、目標を持ち続け、努力するだけ 目標は「優勝」と「日本代表」

スポーツを頑張る子どもたちへ トップアスリートからのメッセージ

Komatsu Daisuke

小松大祐

リコーブラックラムズ CTB / WTB



取材協力：リコーブラックラムズ

profile 1984年9月27日、迫町茂栗生まれ。東京都世田谷区在住。新田一小(現新田小)、中時代は、野球で活躍。佐沼高入学後、姉や中学時代の恩師などの勧めでラグビーの道へ。2003年立正大学へ進学。07年株式会社リコーに入社し、リコーブラックラムズへ入部。10年に社員からプロ選手へ転向。173^{cm}、85^{kg}。



「第13回登米市小学校陸上競技大会」は5月30日、米山中で開かれ、各種目に上位入賞した選手が県大会へ駒を進めた。
「第33回全国小学生陸上競技交流大会宮城県最終選考会」は6月25日、仙台市陸上競技場で開かれ、佐々木兜牙君、木川海さん、佐々木清翔君が100^mで、渥美優希君が80^mハードルで、佐藤弘清君が走り高跳びでそれぞれ優勝した。4人は、8月19日に神奈川県横浜市で開かれる「全国小学生陸上競技交流大会」へ出場する。
結果は次の通り。

【市小学校陸上競技大会】

- 100^m
 - ▼5年男子①佐々木兜牙(北方小)13秒90②及川奏翔(石森小)③樋口匠翔(佐沼小)④三塚怜和(上沼小)▼6年男子①佐々木清翔(柳津小)13秒00②大会タイ③千葉雄翔(東郷小)13秒00④大会タイ⑤柏谷琉斗(上沼小)▼5年女子①木川海(佐沼小)14秒70②木村莉緒(登米小)③岩淵莉子(石越小)▼6年女子①岩淵ゆいな(豊里小)14秒20②沼倉璃恋(米山東小)③小野寺羽麗(上沼小)
- 男子1500^m
 - ▼①白石陽太(浅水小)5分30秒00②千葉雄大(米谷小)③伊藤遥(米岡小)
- 女子800^m
 - ▼①石川晴花(中津山小)2分48秒80②高橋かな(北方小)③武川裕奈(佐沼小)
- 80^mハードル
 - ▼男子①渥美優希(登米小)15秒10②熊谷光太郎(石越小)▼女子①浅野結菜(加賀野小)15秒10②千葉咲依(佐沼小)③鈴木里菜(北方小)
- 走り高跳び
 - ▼男子①佐々木仁(米谷小)1st27②佐藤弘清(石森小)③奥山恵悟(米岡小)▼女子①鈴木彩優(上沼小)1st23②加藤光(中津山小)③葛西栗生(佐沼小)
- 走り幅跳び
 - ▼男子①鈴木琉久斗(北方小)4st09②千葉秀(東郷小)③阿部凌成(中津山小)▼女子①小野寺美優(佐沼小)3st61②佐藤心優(浅水小)③猪股凜(錦織小)

【全国小学生陸上競技交流大会県選考会】

- 400^mリレー
 - ▼男子①柳津小58秒50②東郷小③登米小▼女子①佐沼小1分1秒30②登米小③上沼小
- 100^m
 - ▼5年男子①佐々木兜牙(北方小)14秒37②及川奏翔(石森小)14秒82▼6年男子①佐々木清翔(柳津小)13秒16③千葉雄翔(東郷小)13秒28▼5年女子①木川海(佐沼小)14秒91②木村莉緒(登米小)15秒16▼6年女子③沼倉璃恋(米山東小)14秒53④岩淵ゆいな(豊里小)14秒55
- 80^mハードル
 - ▼男子①渥美優希(登米小)14秒14⑤熊谷光太郎(石越小)14秒85⑧佐々木悠河(北方小)15秒97▼女子④鈴木里菜(北方小)15秒30⑤後藤彩美(南方小)15秒83⑥浅野結菜(加賀野小)15秒87
- 走り高跳び
 - ▼男子①佐藤弘清(石森小)1st32③佐々木仁(米谷小)1st30⑤奥山恵悟(米岡小)1st20▼女子③加藤光(中津山小)1st24⑤鈴木彩優(上沼小)1st15
- 走り幅跳び
 - ▼男子③鈴木琉久斗(北方小)4st21④大澤滯(上沼小)4st20▼女子③佐藤心優(浅水小)3st84⑥小野寺美優(佐沼小)3st70
- 400^mリレー
 - ▼女子⑤佐沼小(武川暢・武川裕)・千葉永慧58秒35⑥登米小(五島・後藤・木村)佐々木58秒85

僕は現在、プロ選手としてリコーでラグビーをしています。しかし、小さいときから続けていたわけではありません。小・中時代は野球をしていました。野球は小2から始め、練習も手を抜かず頑張っていました。練習が、結局、優勝することはできませんでした。

佐沼高進学後、周囲の勧めからラグビー部へ。ゼロからのスタートでしたが、努力の甲斐もあり、1年後半からレギュラーになりました。3年間続けましたが、県内準優勝が最高成績。高2の新人大会、高3の県総体、花園予選と、全て準優勝でした。全国出場はかきませんでしたが、かつて日本代表で活躍した堀越正巳さんから声がかかり、立正大へ進学。立正大は強豪ではありませんでした。しかし、発展途上のチームで、そこに大きな魅力を感じました。大学卒業後は「上を目指すチームで頑張りたい」と思い、リコーを選びました。ここで4年間社会人選手としてプレーをし、5年目からプロになりました。

プロになるイメージは「強豪校に所属し全国大会などで活躍する」が一般的です。僕自身そう思っていました。しかし、自分の場合、高校で全国経験はなし、大学でも目立った成績は残せていません。僕のプロへの道のりは、世間一般が描くイメージと遠くかけ離れています。小、中、高と「足が速く、体が強い」

といわれましたが、どこに行っても自分より能力の高い選手ばかりでした。大学では全国から、リコーでは世界から実力のある選手が集まってきました。その中で、レギュラーの座をかむためには、常に頭を使い、必死に練習しなければなりませんでした。昨年は「トップリーグ」で過去最高の6位になりました。これも、関係者やファンの皆さんなど、多くの人たちの支えがあったからです。チーム目標を達成できてうれしいのですが、ここで満足はしていません。

僕はこれまで「チームでの優勝」がありません。チームに所属し続ける限り、目標は「優勝」です。そして、個人としては「日本代表」に選ばれること。この2つは、ラグビーを始めてから一度も変わっていません。夢や目標は、諦めたらそこで終わり。選手を辞める瞬間まで、この目標を掲げて努力していきます。

県や全国大会に出場する皆さん、おめでとうございます。努力が実を結びましたね。目標を立てて、本番に向けてよい準備をしてください。負けや試合に出られず引退した皆さん、今は悔しいと思います。しかし、それが新しい目標のばねになります。本気の努力は必ず報われます。努力している姿は、必ず誰かが見えます。勝った人も負けた人も、次のステージで頂点を目指してください。僕も皆さんに負けたくないよう、これからも頑張ります。